

あさひ西方見聞録

Vol. 16

題字：旭中学校 國澤 百加



ごあいさつ

旭西部まちづくり推進会議
会長 天野 守章

私たちは、旭西部地域内の町内会・自治会・自主防災会・小中高の学校・幼稚園・保育園及び関係団体等と連携して、「安全で安心して住みよいまちづくり」を目指して活動している団体です。

令和5年度も、新型コロナウイルス感染症の収束傾向が見られませんでした。定例会・防災訓練・あさひ納涼祭・桜の手入れなどの活動は、感染防止対策を行い実施することができました。

令和6年度も、令和5年度に引き続いて、感染症の状況を見ながら、諸活動に積極的に取り組んでいく予定です。

皆様方のご理解・ご協力のほどよろしくお願い致します。

今号の主な内容

- 1P ごあいさつ
- 2P 高ノ森の桜の手入れ、第40回あさひ納涼祭
- 3P 第16回学ぼう災、横内小避難所開設訓練
- 4～6P 学校だより（横内小学校、旭小学校、旭中学校、高知商業高等学校）
- 7～8P 保育園・幼稚園から（塚ノ原保育園、もみのき幼稚園・めだか園）
- 9～11P 活動団体紹介（あさひのこどもを守る会、旭小青少協、横内小青少協、こども食堂とりごえ）
- 12P 塚ノ原駐在所

高ノ森の桜の手入れ

平成16年にスタートした桜の手入れは、令和5年度も同じく年2回、6月11日(日)・18日(日)及び10月29日(日)に実施しました。桜の手入れは、毎回会員である地域住民・旭中学校・横内小校区青少協及び地域内にある福祉施設等の皆様方と実施しています。6月11日(日)は、小雨が降るあいにくの天候でしたが、沢山の旭中学校生徒会の皆様のご協力のおかげで、作業を終えることができました。雨のため11日にできなかった山道の清掃は、18日に会員の協力を得て実施しました。10月29日(日)は絶好の天候に恵まれ、いつもどおり旭中学校生が中心となり実施しました。高ノ森の山道は、桜も咲く自然の素晴らしさを感じさせる場所になっています。 <旭西部まちづくり推進会議 会長 天野 守章>



株式会社三葉

令和5年6月11日(日)、高ノ森の桜の手入れに参加しました。私は2回目の参加でした。草刈機の扱いは久しぶりでしたが、時間がたつと慣れてきました。当日はあいにくの雨でしたが、地元の方々旭中学校の学生さんの参加もあり皆さんが協力して短い時間できれいにすることができました。来年も新しい芽がでて、綺麗な桜の花が咲く頃には、地元の皆様に喜んでいただけたら嬉しいです。また、当社の事業所の利用者様もお連れしたいと思っています。最後に見た頂上付近からの見晴らしは凄く良かったです。また、機会があれば、参加させていただきたいです。

旭中学校3年 鹿取 優未

自らボランティア活動に参加することで、ボランティアがあるからこの地域の自然が守られているということを実感しました。できるだけ多くの人がボランティアに参加し、ボランティアを通じての交流や、地域のことを知る良い機会になればいいなと思いました。

生徒会長 3年 中石 大我

桜の手入れボランティアでは、僕達の身近にあるものでありながら、あまり関わることはない「高ノ森」で自然のありがたみを改めて感じることができました。

あいにくの天気だったのにもかかわらず、僕達に貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。



第40回あさひ納涼祭

「第40回あさひ納涼祭」を開催しました。久しぶりの開催ということもあり、不安なところもありましたが、想像以上にたくさんの応援や協力をいただくことができました。町内会の方々の中には、コロナ禍を経て夏祭りに携わるのが初めてという方も多かったのですが、運営委員や当日のお手伝いを募集し、準備から後片付けも含め地域みんなで作くり上げるお祭りになりました。

当日は、1,000人を超える大勢の方々が登場され、ステージ企画では、新しい団体のステージや、盆踊りや健康体操など、地域で馴染みのある踊りを老若男女みんなで輪になって踊り楽しみました。出店では、子どもたちに喜んでもらえる楽しいブースを作ろうと、事前準備から本番まで奮闘していただいた町内会の方々の姿も大変心強かったです。

そして、今回運営ボランティアとして大学生・高校生・専門学生にも大変助けていただきました。「ブース運営や司会進行など、どれも初めての経験でしたが、地域のお祭りに参加者ではなく「づくり手」として関わる楽しさや難しさなど多くの学びがあった」と感想として伝えてくれました。若い世代が地域に楽しく・やりがいをもって関われる機会を、これからも大事につくっていきたいと思います。

久しぶりの開催、また次世代への引継ぎも兼ねた中で、手探りな部分や準備で慌てたところもありましたが、旭の子どもたちや、地域の方々からの「楽しかった」「ありがとう」の言葉には大変勇気づけられました。

各所でお世話になった皆さん、本当にありがとうございました。 <あさひ納涼祭実行委員会 会長 大崎 博士>





第16回学ぼう災

～旭西部地域防災フェア～



11月19日（日）に、旭中学校で第16回学ぼう災「旭西部地域防災フェア」を実施しました。今回は、新型コロナウイルス感染症も第5類となり、地域も日常を取り戻しつつある環境で、4年ぶりにたくさんの地域の方に参加していただける訓練を計画しました。

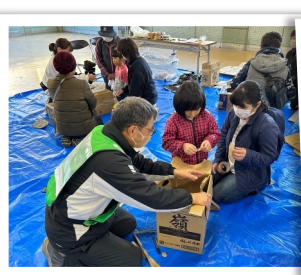
訓練内容は、受付班では避難所運営において避難所の設営・受付・名簿作成を行うことができる訓練を町内会スタッフが行い、参加者は避難した際の受付の流れを体験する訓練を行いました。居住班では居住場所開設訓練と仮設トイレ設営訓練を行いました。

また、今回は「煙体験」や「起震車体験」、「給電車両活用体験」などの体験イベントをたくさん用意しました。

そして、子どもを対象とした「夜間における灯火と暗闇体験（宝探し）」はたくさんのお子様達が参加してくれました。体験だけではなく、防災に対する意識をさらに高めてもらえるように、防災関係資料情報の展示や資料を配布するコーナーも用意しました。

全体の催しとして、たくさんの方に参加してもらうために、餅・お菓子投げの実施とそれぞれの訓練に参加してもらう目的としてスタンプラリーを行い、最後に抽選会を開催し、災害時や日常に役立つ品物を配布しました。

今回も各団体の皆さんにご協力いただき感謝いたします。後日集約した振り返りでは、「良かった」との感想が多い中、「体験も良かったが今後は訓練内容の充実も必要」など内容の改善や見直しなど今後の課題もみつき、次回の訓練に活かしていきたいと思っておりますので、今後ご協力をよろしくお願いいたします。 <旭西部まちづくり推進会議 大久保 光洋>



横内小学校避難所開設訓練



3月10日（日）に横内小学校において、避難所開設訓練を実施しました。新型コロナウイルス感染症が収束傾向であることや、能登半島地震が発生したことなどもあり、各防災会・町内会等の防災担当者による訓練を計画しました。

当日は地域内の各団体等からの参加者も含め53人による有意義な訓練となりました。今回の訓練は、避難した住民が避難所運営スタッフとして

の役割を理解し、避難所開設のための安全確認の方法、避難してきた住民の受け入れについて訓練するとともに、避難所運営での課題に関するワークショップを行い、課題等の共有化を図りました。また、ホームセンターマルニ様による防災用品の展示、説明があり好評でした。

参加者からは、手引書・資料を参考にし訓練に参加したが、災害が発生したとき、お互いにほとんど知らない避難者が集まり、スタッフとして落ち着いて手際よく避難者を受け入れることができるだろうかとの声が聞かれました。

私たちは、地域防災力の向上を図るために、日頃から地域コミュニティの醸成が必要であるとの認識に立って、諸活動を展開しております。

令和6年度は、より内容を充実した防災訓練を実施したいと考えておりますので、多くの住民の皆さんの参加を期待しています。 <旭西部まちづくり推進会議 会長 天野 守章>





学校だより

地域内の4つの小・中・高等学校(横内小・旭小・旭中・高知商業高校)での取り組みを紹介します。

横内小学校 NEWS

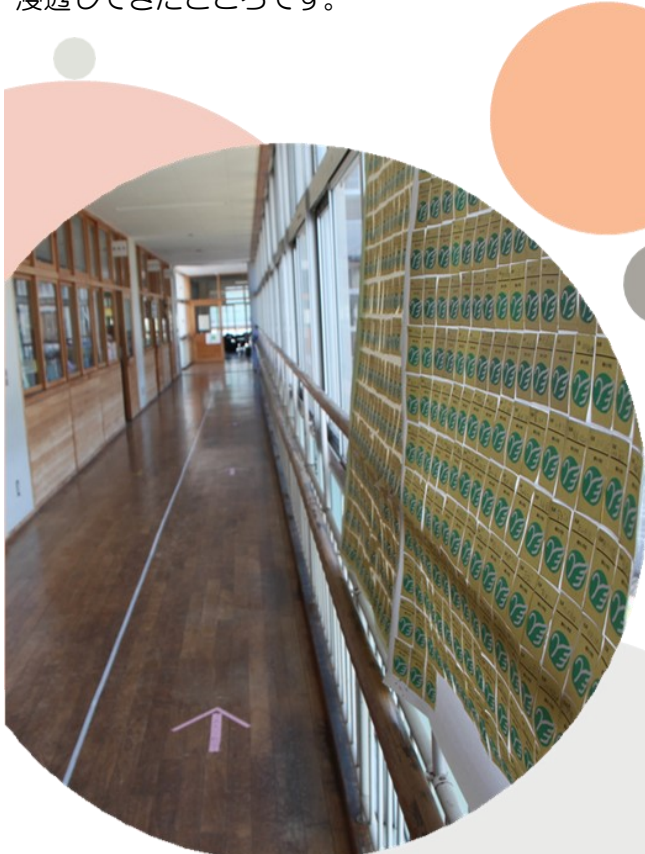
「学校をよくするのは、自分たちです！」今回は6年生の取組について紹介します。

右側通行で安全を守りたい!

校長室で熱弁を振るった6年生!

3学期が始まってまもない頃、「校長先生、お話があるので時間をとっていただけませんか?」と6年生から質問をされました。「いつでもどうぞ」と答えると、すぐさま次の休み時間にやってきたのは6年生男女数名の子どもたち。「自分たちは卒業までのあいだに、横内小学校をよりよくしたいと思っています。そのために安全を守るために廊下の右側通行に取り組んでいきたいと思っています。」みんなで代わる代わるに行う説明は真剣そのもの。その熱さに圧倒されました。

その後、職員室まえの廊下をモデルとして、廊下の真ん中のラインを引く、矢印で方向を示す、ポスターを作製して掲示する、お昼の放送で周知する、右側通行ができている人にカードを渡して半券に名前を書いてもらい提出、壁に掲示して取組が見える化するなど、様々工夫を行っていました。途中、実態調査を行い、取組成果を検証するなど、取組方も本格的でした。この取組の効果もあって、「右側通行」は徐々に子どもたちに浸透してきたところです。



課題を見つけて課題解決へ

これだけでなく、6年生はいくつものグループが校長室にやってきました。給食の食器の運び方や下校の仕方、近所の公園の使い方など、課題は各方面に広がっていました。取組実施の許可を校長先生に貰うために、プレゼン資料を用意し、説得するように工夫した説明をしてくれました。最後は「何かアドバイスがあれば教えてください。」と意見を求められました。どの取組もみんなで力を合わせて実現させ、自分たちなりに課題解決に至っていました。

急速な時代の流れの中で、答えがない問題を解決するための能力が求められています。課題を見つけ、解決に向けて情報を収集したり、人とのネットワークを広げながら協働したり、試行錯誤を繰り返しながらさらなる解決方法を探求していく、そんな体験ができた6年生であったように思います。

この力は、来年度の新6年生に着実につながることを期待しています。

そして、間もなく中学生となる6年生の皆さんの未来が輝くものとなるように心から祈っています。卒業おめでとう!



旭小だより

創立150周年記念式典開催

コロナ禍であった3年前、地域の方、PTA執行部、学校管理職をメンバーとする「創立150周年記念事業実行委員会」を結成し、何をしたいか、何ができるかアイデアを出しながらコツコツと準備を進めてきました。途中で学校管理職の交代もあり大変ご迷惑をおかけしましたが、令和6年3月2日（土）、地域の代表の方々、保護者の皆様にご参加いただき、「150周年記念式典」を執り行うことができました。地域の皆様のご支援くださったこと、多くの方々に来校くださったこと、一緒にお祝いしてくださったことに感謝申し上げます。

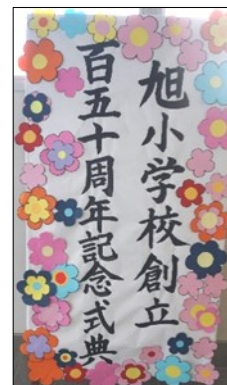
令和5年度、子どもたちは記念事業として「牧野植物園」での学習をさせていただき、その学習から発展した学びを、また、その学習と重なる取組を、式典第2部で発表しました。子どもたちが大好きな旭の自然や旭の人々に囲まれて成長していることを、ご覧いただいた方には感じ取っていただけたのではないのでしょうか。150年という節目の年に本校で一つになった個々の存在。150周年に関わる、そして本校に関わる全ての方々とのご縁に喜びを感じるとともに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

これまでの旭の伝統を受け継いで、ここから、また新しいスタートを切っていきます。今後とも、よろしくお願い申し上げます。



6年発表「笑顔らんまん絆プロジェクト」

牧野富太郎博士の生き方から学ぶとともに、これまで様々な人と出会い、知識や考え、生き方などを学んできた6年生が、よりよい旭にするために、自分たちができることを考え行動してきたことを振り返りました。そして、みんなが仲良くなるために、地域とつながるために「憩いの場」を作ろうと考えました。



「笑顔らんまんASAHIいこいの場」完成！

東側の塀の改修時に伐採したクスノキ・イチョウを使って、ベンチや看板、樹名板、花の絵メッセージなどを作りました。6年生は、「いこいの場」を作るために、部屋を掃除し、写真を飾り、ベンチにイラストを描き、看板も可愛く仕上げました。子どもたちと地域の人、地域の人同士が交流できる場になればと考えています。



防災学習

5年生通学路の安全確認

各学年とも防災学習を行っていますが、5年生は、令和5年12月7日（木）、高知大の大槻教授にご指導いただき、通学路の安全確認を行いました。普段考えたこともなかった道の危険や安全。揺れが起これば、どこに逃げるのか？周りを見ながら道を歩いてみました。また、地域の方の防災に対する備えも教えていただき、「自分たちに今できることは何なのか」を考える学習になりました。





旭中学校

「防災参観日」を行いました!!



旭中学校では、旭西部防災連合会主催の「学ぼう災」が行われる日を「防災参観日」とし、保護者とともに防災を考える機会を設けています。今年度は、1年生で「災害と食」について考える取組として、「防災保存食」の体験を行いました。

学校には、災害への備えとしてアルファ化米が備蓄されていますが、実際のところ、これを食べたことがある生徒はそう多くありません。

そこで、今回は、1年生全員が、いつもの昼食代わりに、アルファ化米に加え、P.T.A予算で独自に学校に備蓄している長期保存の「ハンバーグ」や「肉じゃが」といった副食の試食を行いました。

まず、災害時を想定し、紙で食器をつくります。その後、アルファ化米の調理、喫食となりますが、今回はアルファ化米の調理に必要なお湯は、保護者のみなさんにご協力いただき提供してもらいました。

初めて防災保存食を食べてみて、「思ったよりおいしい」、「普通のごはんとかかわらん」、「ハンバーグをもっと食べたい」という感想がある一方、「ずっとこんな食事はかりだと栄養が偏りそう」、「お湯じゃなく、水で作ったらおいしくないかも」といった感想もあり、「災害と食」について、体験から様々な気づきを得ることができたようです。

南海トラフ地震発生の危険と隣り合わせの生活を送っている私たち。自分の身を自分で守ることに主体性をもって取り組むことの大切さについては、日々様々な媒体を通して見聞しています。今回の学習を機に、食料だけでなく、災害の発生を想定した家庭での備えについて考え、保護者の方といっしょに「自助」に取り組んでもらいたいと思います。



高知商業高等学校

高知商業高校ジビエ部とは？

高知県の森林率は84%と全国1位を誇ります。豊かな自然から海山川の恩恵を受け一方で、シカやイノシシなど野生鳥獣による農林漁業への被害が深刻な地域課題となっています。

高知商業高校ジビエ部は、この地域課題を解決し、循環型社会を実現するため、捕獲されたシカやイノシシをジビエとして活用、商品化、販売を行い、得られた利益で食害を受けた森林の保護活動を支援しています。今年で活動7年目を迎える高知商業高校の部活動です。



目標
寄付金額50万円

仮説
ペットフード開発
で達成可能か？

- 取組**
- ① ジビエペットフード開発
 - ② ジビエ・レシピの配布
 - ③ インターンシップの実施

令和5年度は、「陸の豊かさを守りつづける」と活動テーマを設定。目標とした寄付金額は、以前から要望があったジビエを活用したペットフード商品を開発販売することで達成できるのではないかと仮説を立てました。また、ジビエ普及のためには、私たちが高知市役所で出店したジビエ・レストランでの提供メニューのレシピを配布し、接客マナー向上のために県内スーパーでのインターンシップを実施してはどうかと考えました。令和6年2月までのペットフード販売個数は1,600個に上ります。そして、私たちが立てた目標寄付額は、令和5年10月中旬時点で達成することができました。

3月21日（木）、森林保護団体である三嶺の森をまもるみんなの会様に寄付金50万円がジビエ部より贈呈され、防鹿ネット敷設費用などに充てられます。これからも、ジビエ利活用で高知の森や自然を守るため、新しい活動に取り組んでいきます。ジビエ部の活動内容やジビエ商品の販売情報は、右側の二次元コードを読み取っていただければ、公式インスタグラムで確認いただけます。



保育園&幼稚園 から



塚ノ原保育園

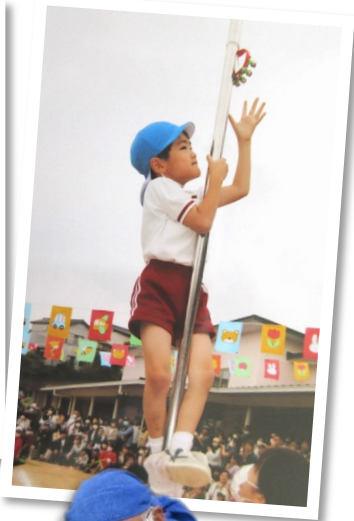
コロナ禍でさまざまな行事が今までのようにできない年が続きましたが、5月に5類へ以降となったことで、様子をみながら少しずつ緩和して行うことができました。

10月の運動会では、朝からお天気が心配される中での開催となりましたが、なんとか無事に全部のプログラムを行うことができました。乳児組と幼児組の2部制にし、人数制限をせずに行い、子どもたちの頑張っている姿を沢山の方に見ていただき、子どもたちの成長を共に感じることができました。

特に年長組による鼓隊では、8月から少しずつ練習を始めました。できるかな？難しいな？と不安になる姿もありましたが、友だちと一緒に練習していく中で「こうやってやるがで」「できたね」と励まし合っている姿もみられ、本番、自信いっぱいの表情で披露していた姿に、さすが年長さん！！と、たくましさを感じたことでした。

保護者競技にも沢山の参加をいただき、仮装競技を行いました。何が当たるかドキドキのお父さんたち！！保育士の手作り衣装を着て変身したお父さんたちに、「アンパンマンやー！」「桃太郎やー！」等と、子どもたちやお家の方から満面の笑みと大きな拍手があがり、大盛り上がりとなりました。

保育園では他にも、毎月のお誕生日会や、夕涼み会、参観日、親子遠足、発表会、作品展等さまざまな行事があります。これからも行事を通してたくさんのご経験してほしいと思います。 <塚ノ原保育園 主任 片山 奈穂>



えっさ！ほいさ！

もみのき幼稚園 めだか園

～いのちを守る～

もみのき幼稚園は、令和5年度BCP（事業継続計画）に取り組み、防災に力を入れた一年となりました。月に一度の避難訓練では、園児職員に事前のお知らせをせず、「地震が来ました！」と放送を流すことも…。本当に震度3で揺れた時には、ほとんどの子どもが自分の命を守るためにロッカーの中に入りヘルメットをかぶることができました。月一回行う避難訓練の成果が出ており、どうやって自分の命を守るべきか、しっかり身につけており、子どもたちの素早い行動に驚きました。ふり返りで、職員が子どもたちを優先し、ヘルメットをかぶらず避難していることがわかりました。職員が助からなければ、多くの園児の命は守れません。訓練であってもしっかりとかぶるよう徹底しました。

また、今年度は地域の防災訓練にも積極的に参加をし、「地域の方々とのつながり」の大切さに改めて気づきました。地域の皆様も今まで以上に幼稚園の行事などに参加していただければと思います。子どもは、家庭だけ、園だけで育つのではなく、地域の皆様の温かい眼差しと優しい関わりで『良い人』となるよう育てていきたいと思います。

今まで以上に、もみのきの子どもたちをよろしくお願いいたします。<もみのき幼稚園 主幹教諭 壬生 なおみ>



活動団体紹介

旭西部まちづくり推進会議と一緒に協力し合いながら、旭西部地区の住民の皆さんのための活動を行っている団体をご紹介します！

あさひのこどもを守る会

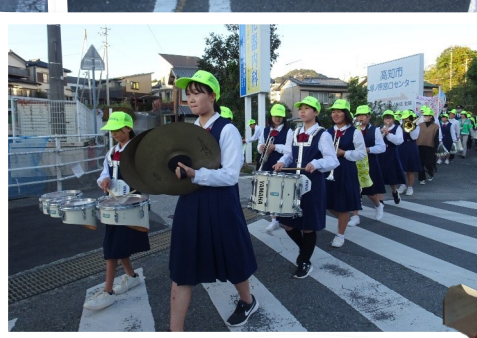


本会は、町内会・小中高・PTA・青少協・旭民児協・塚ノ原駐在所・交通安全協会塚ノ原分会等の多くの会員が、相互の活動調整、情報交換・共有化を図るため、定例会（3カ月に1回・第4火曜日）を開催し、定例総会は6月に開催するとともに、防犯パトロール（マイカーによる青色回転灯車）・児童の登下校時パトロール・街路灯・通学路での安全確保などの活動を行っています。

令和5年度は、コロナ禍が落ち着いてきたこともあり定例会は通常のとおり開催するとともに、活動の集大成である「第15回安全・安心なまちづくり啓発広報パレード」は、旭中学校吹奏楽部の素晴らしい演奏や生徒会を先頭に実施することができました。参加されました高知県警察本部、高知県県民生活課等の関係機関の皆さんや安全・安心なまちづくりに活躍されている地域の方々には心よりお礼申し上げます。

毎月第3火曜日の夜間パトロール（青パト同行）、青パトによる雨天時を除く全登校日に旭・横内小児童下校時の通学路での見守り活動等を実施しました。また、交通安全協会塚ノ原分会（構成員14名）は、春・夏・秋の交通安全週間、毎月20日県民交通安全の日、その他県警察本部からの要請による日、毎月15日（休日、土日は前後）塚ノ原駐在所前交差点での夜間指導、横内小学校児童の多く（約300人）が横断する通学路での交通指導（全登校日）、旭小学校付近での毎月第3火曜日の夜間パトロールなどに取り組んでいます。

こどもの見守り活動にご支援・ご協力の程よろしくお願ひします！ <あさひの子どもを守る会 会長 長尾 達雄>



旭小 青少年育成協議会

12/24

第33回

しめ縄づくり & もちつき大会



4年ぶりにしめ縄ともちつき大会を木村会館で行いました。

3青少年育成協議会（横内・旭東・旭）、旭地区社会福祉協議会、旭地区民生委員児童委員協議会主催で行いました。

近年、しめ縄を飾る家、店頭でのもちつきをする風景はすっかり見ることはなくなってきていると思われます。しめ縄も、わら・飾り物のだいたい・ウラジロ・ゆずり茶・松竹梅、年々調達も難しくなっております。

昔から伝わっている伝統的な行事は減ってきていることは分かります。物を作る人がいる限り続けていくことも必要ではないでしょうか。縄をなえる人も少なく、教えていくことは大変なことですが、材料をそろえることができる限り続けていきたいと思えます。

もちつきは今年おもちを丸めるのはやめました。もちつきだけ体験してもらいました。沢山の小学生がもちつきをしました。ぼん菓子もありました。お米、マカロニ、トウモロコシ、行列ができる繁盛で小学生にはお持ち帰りしてもらいました。

来年もやります! 〈旭小学校区青少年育成協議会 市川 月子〉



横内小

青少年育成協議会

今回は本年度に実施させて頂いた各行事の取組内容を、紹介したいと思います。まず、繰り返しになりますが、少し長いのでいつも通称で「青少協（せいしょうきょう）」と呼んで頂いています。「青少協」は、高知市内の小中学校区単位で組織されているボランティア団体で、おもにその地域に住む小学生や、中学生の健全育成に関わる校外での支援活動を、高知市教育委員会青少年・事務管理課とともに連携を密に取りながら、支援させて頂いています。〈横内小学校区青少年育成協議会 代表推進委員 会長 甲藤 浩〉

① 柏島シュノーケリング体験（主催事業）

本年度も8月26日（土）（日帰り）で予定、参加者も募集し15名ほどで実施することになっていました。直前になってコロナ・インフルエンザ等体調不良で参加者が減ってしまいましたが、予定通り開催しました。今回は数的にスタッフの研修要素が強くなってしまいましたが、来年度以降にも継続していく為にも実施した意義があったと感じました。

② Aブロック共同事業（主催事業 於木村会館）

11月12日（日）に高知市西部地区（Aブロック＝9小学校区）の合同開催で、横内校区からは20名ほどの参加をいただき、全校合わせると130名前後の参加者になり、盛大に行われました。当会は「手作りけん玉」を提案し、最初はけん玉に興味なかった子どもも大皿に乗せる事が出来ると楽しく遊ぶようになり充実した時間になりました。子どもたちにとってもいい体験、思い出になったと思います。

③ しめ縄づくりと餅つき大会

（3校＝旭・旭東・横内小校区主催事業 木村会館）

④ 高知龍馬マラソン（支援事業 於浦戸大橋東詰め・花街道）

本年度は2月18日（日）に開催され、コース管理員としてPTA等と連携し10名で参加しました。沿道で3時間ほどランナーの見守りや見学者や通行する車両の誘導等の地味な活動ですが、友人・知人のランナーにも間近で応援もでき、終了後はこのほか達成感があります。この行事は「保護者同士・大人同士の繋がり」が主となるのですが、毎年楽しみにしていただいている方々がいて大変感謝しています。

⑤ 地域支援活動

1年を通して小・中学校主体に行われる行事（夏・冬まつりや昔あそび体験授業、文化祭・学ぼう災等）や、各地域団体主催による行事（あさひ納涼祭や防犯啓発パレード、敬老会、横内小校区運動会等）にもスタッフとして会員が積極的に参画し、日頃からの連携、相互交流を深めました。最後に、来年度も「横内青少協」は子どもたちの活動支援を積極的に行い、あわせて校区内での「地域団体間の繋がり(ボランティアネットワーク)」にも取り組みながら、「地域力」活性化の一助になる活動を行う所存です。



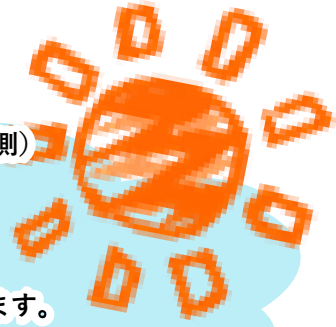
誰でも自由に利用できます!

こども食堂とりごえ

令和5年度もコロナ感染防止のため、弁当配布や休業したりと本来の目的を達成できない残念な1年間でした。しかし、コロナが落ち着いた12月は、高知商業高校生が「クリスマス祭り」を計画し、料理・飾付・ゲームなどを担当して約60名の子どもや保護者の皆さんを迎えて、久しぶりにみんなで楽しい時間を過ごしました。また、6月からは子ども食堂に関心をもった高知商業高校生が学校終業後の時間が空いた時は、弁当の配布・後片付けなどに参加してくれて、本当に助かりました。
〈こども食堂とりごえ実行委員会 会長 天野 守章〉

～令和6年5月以降の取組～

- 場 所** 健康カフェとりごえ 高知市鳥越1-1 (高知商業高校野球場バックネット下側)
- 開 店** 毎月2回 (第1・3月曜日) 17時～19時
- 内 容** 基本的に食堂形式 (バイキング) + お弁当配布
(注) 新型コロナウイルス感染拡大により、お弁当配布のみとなる場合があります。
- 負 担** 食堂利用では、こども無料、高校生以上は200円 (協力金) をいただいております。
なお、お弁当配布では、容器代として1個200円の協力金をいただいております。



塚ノ原駐在所

安心!

安全!

住民の皆様には平素より高知警察署、塚ノ原駐在所への多大なご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
当駐在所では昨年、横内小学校放課後児童クラブの子供たちの原画により作成した水難事故防止ポスターが、県下すべての小学校に1万枚を配布し、管内の鏡川だけでなく県下の水辺での水難事故防止を呼び掛ける活動ができました。

また、昨今急増している「SNS投資詐欺やサポート詐欺」等の特殊詐欺被害防止として4年ぶりに開催されたあさひ納涼祭では、「高知振り込まないーの音頭」を披露でき、参加の地域住民の方々と共に被害防止の強い決意を確認させていただきました。

更に昨年末には、塚ノ原保育園の園児の皆さんに飾り付けをお願いした「あんしんあんぜんツリー2024」を駐在所前に設置し、かわいい飾りとイルミネーションで年末年始の交通安全や事件事故防止を道行く方々に呼びかける活動ができました。

今後とも子どもやお年寄りが安心して暮らせるまちづくりのために当駐在所が地域の安心と安全をさらに拡充し実現できますよう、住民の皆様のご協力とご意見をお願いいたします。
〈塚ノ原駐在所〉



3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月
あさひ西方見聞録 Vol.16 発行 定例会	避難所開設訓練(横内小学校) 定例会	旭ゼミナール(地域コミュニティ推進課) 定例会	交流会	第16回学ぼう災(旭中学校) 定例会	高ノ森の桜の手入れ 定例会	定例会	あさひ納涼祭 定例会	定例会	高ノ森の桜の手入れ 定例会	総会(交流会)	あさひ西方見聞録 Vol.15 発行 定例会

旭西部まちづくり推進会議
令和5年度の活動

旭西部まちづくり推進会議

仲間募集中

旭西部まちづくり推進会議では、学ぼう災(防災訓練)、あさひ納涼祭、桜の手入れなどの運営スタッフを募集しています。

興味のある方は、高知市地域コミュニティ推進課までお気軽にお問い合わせください!!

あさひ西方見聞録 Vol.16

2024年(令和6年)3月発行

編集:旭西部まちづくり推進会議

発行責任者:天野 守章

連絡先:高知市地域コミュニティ推進課

(TEL 088-823-9080)